

## 「タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール参加報告書」

京都大学文学部4年 木野 結

## ① 学習成果

タイ語はこれまで学習したことがなく、今回のプログラムが初めてのタイ語経験であった。このプログラムの授業を通して、買い物の際に値段を聞いたり、簡単な自己紹介ができるようになった。日常生活ができるレベルとは到底言えないが、それでも、実際に店でタイ語を使ってみると、店員がうれしそうな笑顔を見せてくれ、また普段は日本語や英語でコミュニケーションをとっていたタイ人の友人たちも喜んでくれた。これまでの経験から、実際のスキルとしての言語の必要性は学んでいたが、今回のプログラムでは、相手の言語を学ぶことによるコミュニケーションの円滑化や、相手との距離の縮まりを実感することができ、言語学習の別の意味を見出すことができた。今後は、これに安住せず、生活していくうえでのツールとしてのタイ語も、もっと勉強していきたい。

## ② 海外での経験

イギリス留学をはじめとして、これまでも多くの海外経験があったが、欧米圏以外にはあまり行ったことがなく、今回のタイが2回目の（日本以外の）アジア滞在であった。バンコク市内の様子を見るだけでも、ハイブランドの店が立ち並ぶ大きなデパートと、その前の道に並ぶ市場や屋台の融合が新鮮で、バンコクの発展と、それへの社会や人々の適応が垣間見られた。一方、チュラーロンコーン大学というタイ随一のエリート校の学生と交流する中で、そうした発展していくタイ社会の中にある格差についても強く実感した。

## ③ プログラム内容

1日3時間ずつのタイ語の授業を中心に、タイの文化や歴史、文学について英語や日本語で授業を受けた。タイ料理作りの体験では、これまでひたすら食べるだけだったタイの料理を作ることで、タイの人たちの生活や、その大きな部分を占める食文化といった背景を垣間見ることができた。さらにこれらに加えて、私たちのための実地研修として、ワット・プラケーオ等の寺院見学の機会も設けられており、非常に充実した内容であった。特に、授業の一環としてチュラーロンコーン大学の日本語専攻の学生と行った共同発表は、双方のバックグラウンドの違い等もあり大変であったが、それらを乗り越えて共同で一つのものを形にするという点でよい経験ができたように思う。

## ④ 進路への影響

私は、4月からの進路がすでに決まっており、今回のプログラムが進路の決定に影響を及ぼしたことはなかったが、先述のタイ人学生との発表およびその準備を通して、バックグラウンドの違う個人を一つのグループとしてまとめるという経験ができた。これは、4月からの新しい環境でも大いに役立つ経験であろうと思う。また、このプログラムを通して言語習得の楽しさや意義に気づくことができ、あと半年ほどの学生生活を、専門の研究と並行して言語学習にも費やしてみたいと考えるようになった。